

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：34418

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770174

研究課題名(和文) 身分・職業・役割を表す名詞から派生した動詞の英語史における統語・意味的変遷

研究課題名(英文) Syntactic and semantic changes in the history of English with verbs derived from nouns expressing status, occupation or role

研究代表者

三浦 あゆみ (Miura, Ayumi)

関西外国語大学・英語キャリア学部・准教授

研究者番号：00706830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、captain, knight, orphan, referee など、人を表す名詞から品詞転換した一連の動詞の英語史における用法の変遷を、OED Online における引用文に基づいて包括的に調査し、動詞の意味と統語的用法の通時的な相関関係の一部を明らかにした。3年間の研究作業を通して、現代英語におけるこれらの動詞の統語的特徴はいずれも16世紀以降に顕著となること、同時期を境に、元の名詞の意味のみに基づいて品詞転換後の動詞の意味・用法を予測するのが困難になることなどを発見し、先行研究におけるこれらの動詞に関する議論を歴史的な統語・意味の観点から広げた。

研究成果の概要(英文)：On the basis of illustrative quotations in the OED Online, this project conducted a comprehensive investigation into changes in the use of verbs converted from human nouns (e.g. captain, knight, orphan, referee) in the history of English and revealed part of the diachronic correlation between verb meaning and syntactic use. Over three years the work showed, among other findings, that each of the syntactic features of these verbs in Present-day English becomes conspicuous from the sixteenth century, which coincides with the start of the period when it becomes difficult to predict the meaning and syntactic use of the converted verb only by the meaning of its parent noun. The project expanded the previous discussion of the verbs in question from the perspective of historical syntax and semantics.

研究分野：英語史

キーワード：名詞派生動詞 品詞転換 英語史 統語論 語彙意味論 OED 身分 職業

1. 研究開始当初の背景

本研究は、Levin (1993: 184-5)に掲載されている、以下の2つの動詞群に端を発する。

orphan verbs: apprentice, canonize, cripple, cuckold, knight, martyr, orphan, outlaw, pauper, recruit, widow

captain verbs: boss, bully, butcher, butler, caddy, captain, champion, chaperone, chauffeur, clerk, coach, cox, crew, doctor, emcee, escort, guard, host, model, mother, nurse, partner, pilot, pioneer, police, referee, shepherd, skipper, sponsor, star, tailor, tutor, umpire, understudy, usher, valet, volunteer, witness

orphan verbs は canonize を除いていずれも同形の名詞があり、make を用いて意味を定義できる(例: knight 'make (someone) a knight')。また、The soldier was knighted by the king. のように、現代英語では受動態で頻用される。*captain* verbs も同形の名詞があるが、act を用いて定義される(例: tutor 'act as a tutor for/toward')。また、行為の対象は動詞の直接目的語(例: Miriam tutored her brother.) か前置詞の目的語(例: Her cousin clerked for Judge Davis.) として表される。

orphan verbs と *captain* verbs の一覧と Levin による解説を見る限り、両動詞群はそれぞれ一貫した特徴を持つように思えるが、実際はそうではないことが、OED (Oxford English Dictionary) を用いた簡単な調査で分かる。たとえば、大多数の動詞は名詞から品詞転換によって生じたものだが、nurse は別の動詞の変異形、understudy は動詞が元、volunteer は volunteering からの逆成である。また、*orphan* verbs と *captain* verbs の大半は人の身分や職業を表す名詞から派生しているが、coach, guard, model, star はこれに該当せず、品詞転換後は人とは関係のない意味を表していた(例: coach 'to convey in, seat in, provide with, a coach')。さらに、*orphan* verbs として挙げられている recruit は、'to provide someone with a recruit' という、*orphan* verb でも *captain* verb でもない意味を当初は表していた。

orphan verbs と *captain* verbs の意味的な区別も必ずしも明確ではない。名詞派生動詞の著名な研究である Clark & Clark (1979: 775) では、*orphan* verbs は「元の名詞が外的な力によって、時に本人の意思に反して授けられる役割を表す」、*captain* verbs の元の名詞は「本人が意識的に担う役割や職業を意味する」とされている一方で、fool はどちらでも利用可能となっている(例: Nick fooled Nora. [*orphan*] vs. Nick fooled around with

Asta. [*captain*])。Bladin (1911: 116-17) は fool のような動詞の例を OED から他に複数引用しており、現代以前の英語では、*orphan* verbs と *captain* verbs の境界はより緩やかであったことが示唆される。また、上記のとおり、*orphan* verbs は現代英語では受動態で頻用されるが、いつ頃このように用法が固定化したかは明らかになっていない。*orphan* verbs や *captain* verbs を含めた(名詞派生の)品詞転換動詞は伝統的に語形成の分野で研究されてきたが、歴史的観点に立った意味・統語的側面に関する調査には多くの余地が残されている。

2. 研究の目的

1で述べた背景を元に、本研究では、古英語から現代英語までを対象とし、*orphan* verbs と *captain* verbs が現代英語での意味・統語的特徴をいつ頃、どのように習得していったのかを実証的に調査することで、動詞の意味と統語的用法との通時的な相関関係の一部を明らかにすることを目的としている。また、元の名詞の意味によって、両動詞群の区別がどの程度可能か、fool のように *orphan* verb と *captain* verb 双方の特徴を持つ動詞がどの程度見られるかも検証した。

3. 研究の方法

本研究の遂行のためには、古英語から現代英語までの *orphan* verbs と *captain* verbs の包括的なリストが必要となるが、そのようなリストはあいにく先行研究に見られない。英語の語彙がいつ・どのように誕生したかを知るには OED を参照するべきだが、各種の検索方法が可能なオンライン版であっても、名詞から品詞転換したと語源欄に記載されている動詞の見出しを抽出しようにも、記載方法が統一されていないため、一般ユーザーには困難を極める。

下記「学会発表」を行った際、聴衆の中にいた OED のスタッフの方々に事情を相談したところ、幸いにも、当時のコンテンツとタグ付けに基づく、動詞と元の名詞の包括的な OED 見出しリストを Excel ファイルで提供して頂いた。ファイル内の 6,688 の動詞をオンライン版 OED で全て確認し、元の名詞が何らかの「人」(集合名詞を除く)を表し、その意味から品詞転換したもので、*orphan* verb が *captain* verb のいずれかに該当し、見出し内に引用文があるものを抽出した結果、660 の動詞が残った。

これらの動詞を、複数の先行研究から独自に作成した動詞のリストと照合し、OED の語源欄で名詞からの品詞転換によって生まれたとされているもののみを考慮したところ、23 の動詞が新たに追加された。これらの動詞が OED のスタッフの方々から頂いた Excel ファイルに含まれていなかった理由には、元の名詞の品詞表示や動詞の語源欄の記載が変則的であることなどが挙げられる。

計 683 の調査対象動詞が、それぞれいつ *orphan verb* または *captain verb* として誕生したかを世紀ごとに分けて一覧化した後、オンライン版 OED の見出しに掲載されている定義と引用文を全て、FileMaker Pro で作成したデータベースに記録し、構文のタイプに関して一括検索が出来るよう設定を行った。

4. 研究成果

本研究の(途中)成果は、下記「主な発表論文等」にまとめられているが、研究期間開始当初から、英語史や英語学の分野で権威のある国際学会で定期的に口頭発表を行うことで、作業を進めるペースメーカーとしてきた。本項目の内容は、本研究全体の成果を書き上げた下記「雑誌論文」に基づく。

以下の表 1 で、古英語 (OE) から 20 世紀までの新規の *orphan verbs* と *captain verbs* の分布を示す。14 世紀以降、*captain verbs* のほうが *orphan verbs* よりも一貫して生産性が高い。また、両動詞群とも 16 世紀に大きく数が増え、17 世紀に最初のピークを迎え、18 世紀に一旦落ち込み、19 世紀に再びピークを迎えているが、これは OED 掲載の動詞全体の分布と一致している。

	<i>orphan</i>	<i>captain</i>
OE	1	-
12C	2	1
13C	3	3
14C	-	10
15C	2	7
16C	22	59
17C	34	99
18C	11	59
19C	24	144
20C	4	106
Total	103	488

表 1 *orphan verbs* と *captain verbs* の分布

表 2 は *orphan verb* と *captain verb* の双方で使える動詞 (*oc verbs*) の分布を示したものである。*o to c* は元々 *orphan verb* だったものが *captain verb* の用法を発達させた例、*c to o* はその逆の例、*o = c* は *orphan verb* と *captain verb* の用法が同じ年に生まれたというまれなケースを表す。*o to c* と *c to o* の数はほぼ変わらないことから、どちらの方向の変化も等しく可能だったことが分かる。

	<i>o to c</i>	<i>c to o</i>	<i>o = c</i>	Total
14C	-	1		1
15C	2	3		5
16C	11	11		22
17C	11	14	1	26
18C	3	3		6
19C	13	10		23
20C	4	5		9
Total	44	47	1	92

表 2 *oc verbs* の分布

表 3 は古英語期から 20 世紀までの各時代において、*orphan verb* または *captain verb* としての用例があるもの (*oc verb* も含む； = 括弧内の右側の数字) のうち、受動態の用例があるもの (= 括弧内の左側の数字) の比率を示したものである。*orphan verbs* は 14 世紀以降約 7 割が継続して受動態で使われているが、*captain verbs* の受動態での使用率は、動詞の数が大きく増える 16 世紀以降でも 3 割程度にとどまっている。

	<i>orphan</i>	<i>captain</i>
OE	0 (0/3)	0 (0/1)
12C	33.3 (1/3)	100 (1/1)
13C	40.0 (4/10)	0 (0/5)
14C	75.0 (9/12)	5.0 (1/20)
15C	72.2 (13/18)	8.0 (2/25)
16C	68.3 (43/63)	21.1 (24/114)
17C	66.4 (75/113)	32.6 (71/218)
18C	66.7 (44/66)	28.6 (54/189)
19C	69.2 (83/120)	34.2 (130/380)
20C	70.0 (49/70)	31.7 (113/357)

表 3 *orphan verbs* と *captain verbs* の受動態での使用率

表 4 は古英語期とその後各世紀における新しい *orphan verb* または *captain verb* (= 括弧内の右側の数字) のうち、その初出例が受動態であるもの (= 括弧内の左側の数字) の比率を示したものである。*orphan verbs* は 14 世紀で大半が、15 世紀以降 19 世紀までは約半数が初出例 = 受動態となっているが、*captain verbs* の初出例と受動態との結びつきは概して弱い。表 3 と表 4 から、*orphan verbs* と受動態との密接な関係は 14 世紀に始まったことが分かる。

	<i>orphan</i>	<i>captain</i>
OE	66.7 (2/3)	-
12C	0 (0/2)	100 (1/1)
13C	28.6 (2/7)	20 (1/5)
14C	83.3 (5/6)	0 (0/16)
15C	60.0 (3/5)	0 (0/20)
16C	56.8 (25/44)	10.6 (9/85)
17C	55.6 (35/63)	19.0 (23/121)
18C	50.0 (9/18)	15.2 (10/66)
19C	44.4 (16/36)	16.9 (27/160)
20C	27.3 (3/11)	13.2 (15/114)
Total	51.3 (100/195)	14.8 (86/580)

表 4 *orphan verbs* と *captain verbs* の初出例における受動態での使用率

Levin (1993) では述べられていないが、*captain verbs* 独自の統語的特徴に、形式目的語 *it* と共起して自動詞の意味を表すというものがある(例: *boss it 'act as a master'*)。この用法は 16 世紀に生まれ、その後 20 世紀に至るまで継続して観察されるが、用法が出現した時期が、*orphan verbs* と

受動態との関係がより強固になった時期と重なるのは注目に値する。

16世紀はさらに、away や out, up などの不変化詞と *captain verbs* が共起するようになった時期でもある。同じ用法は *orphan verbs* にも17世紀以降に見られるが、散発的でしかない。

続いて両動詞群の意味的特徴を、特に Clark & Clark (1979) で挙げられている定義と照らし合わせつつ、時代ごとに概観する。

(1) *orphan verbs*

表1が示すとおり、古・中英語期は数が非常に少ない。Clark & Clark (1979) が述べる「元の名詞が外的な力によって、時に本人の意思に反して授けられる役割」に該当するものが多い(例: knight, martyr, thrall) 一方で、coward のように、この定義に該当しないものもある。「外的な力」に相当する意味は coward が使われている構文 (Thy tarying thy folk cowardith! [c1300 *K. Alis*. 3344]) から付与されるが、既に14世紀初頭において、元の名詞の意味だけでは *orphan verb* になるかどうかが判然としなかったことが分かる。

16世紀は元の名詞の種類が多様化し、地位が高い第三者により付与される役割(例: liege, prentice) 本人の意思に反した低い社会的地位(例: beggar, concubine) 固有名詞 (Balaam) 称号・呼びかけ(例: rabbi, sir) に分けられるが、いずれも Clark & Clark の定義におおむね合致すると言える。

17世紀の新しい *orphan verbs* は、16世紀のように望ましくない立場や低い地位(例: hostage, publican) 他者に付与される役割(例: banneret, deputy) や称号(例: cousin, madam) から派生する傾向がある一方で、hero, stranger や一部の固有名詞 (Phillis, Portuguese) 派生のもは Clark & Clark の定義にそぐわず、受動態などの構文によって「外的な力」の意味が付与される。

18世紀には目立った変化が見られず、望ましくない地位(例: scoundrel) や称号(例: countess)・呼びかけ(例: mama) を表す名詞に基づくものと、既存の *orphan verb* の類義語(例: baby) が見られるが、grizel や nun のように、元の名詞には現れていない、Clark & Clark の定義に合致する意味が文脈から補われる場合もある。

19世紀は呼びかけを表す名詞に基づくもの(例: darling, old boy) が最も多いが、少数の動詞を除き、Clark & Clark の定義に合致しないものも多い(例: country cousin, goblin)。但し、これらは統語的文脈からその意味を判別できる。

20世紀の新たな *orphan verbs* は数が少ないが、いずれも望ましくない社会的地位を表す名詞に基づいており(例: scapegoat, white-slave)、この意味によって *orphan*

verbs として使われたことが想定される。

(2) *captain verbs*

古英語期に *captain verbs* はなく、中英語期から誕生する。Clark & Clark の定義のように「本人が意識的に担う役割や職業を意味する」名詞から派生するもの(例: cook, pastor) が多い一方で、*orphan verbs* の元の名詞とほぼ同義なもの(例: enemy, heir) や、多くの *orphan verbs* 同様、望ましくない役割を表す名詞に基づくが、その役割を意識的に担っていることが文脈から分かる場合もある(例: lecher, shrew)。

orphan verbs 同様 *captain verbs* も16世紀以降に生産性を増す。多くが職業を表す名詞に基づいているが(例: butcher, pilot) 職業でなくとも、意識的に受け持つ役割に基づくもの(例: burglary, pilgrim) と固有名詞に基づくもの(例: atlas, Pharisee) もある。一方、Clark & Clark の定義に特別該当しないもの(例: lob, maiden) や既存または後に生まれる *orphan verbs* と類義的なもの(例: devil, lackey, vagabond) も見られ、元の名詞の意味だけでは *orphan verb* と *captain verb* のどちらになるかが必ずしも予測できないことが分かる。

17世紀は16世紀よりも多様性を増し、職業(例: barber, lawyer) や意識的に取る役割を表す名詞(例: mutineer, scavenger) に基づくものが継続的に見られる一方、これらに該当しないあらゆる種類の人を表す名詞(例: carl, gipsy, handmaid, virgin) が *captain verb* 化し、既存の *orphan verb* と類義的なもの(例: attorney, Greek) も見られる。但し、17世紀の新しい *captain verb* のいずれも「外的な力によって授けられる役割」に紛れもなく該当するものはなく、*orphan verbs* との区別が完全に失われたわけではない。固有名詞に基づく新たな *captain verbs* (例: Don Quixote, hector, Lucian) も、自身の信念に従って行動した人物に基づいており、Clark & Clark の定義に合致する。

18世紀の状況は17世紀と類似しており、職業(例: butler, jockey) や明確な意図を持った人(例: bully, sycophant) を表す名詞から派生している場合もあれば、多種多様な人を指すもの(例: fussock, slattern)、称号に該当するもの(例: prime minister, squires) 既存や後出の *orphan verb* と類義のもの(例: heroine, proxy) もある。

19世紀も前世紀までの状況と変わらず、職業(例: architect, headmaster) や意識的な行動を伴う人(例: hooligan, toady) を表す名詞、意図的に何らかの行動に出た人に由来する固有名詞(例: Jonah, Munchausen) が多くある一方で、これらと直接関連がないもの(例: connoisseur, mummer) も少なく、称号(例: emperor, sultan) や他者から与えられる役割(例: chairman, vert) など、むしろ *orphan verbs* にふさわしいも

のも見られる。

20 世紀も同様に、職業（例：editor, secretary）や意識的な行動を伴う人物を表す名詞（例：nosy parker, scrutineer）や、文学作品の主要登場人物で、特定の行為に出た人を表す固有名詞から派生したもの（例：samson, Sherlock）が継続して見られる一方で、これらのどれにも該当しないものも多い（例：ancestor, cobber）。

(3) *oc verbs*

(1)と(2)から、Clark & Clark の現代英語における *orphan verbs* と *captain verbs* の意味の定義は、現代英語以前の多くの動詞に援用できるものの、これに当てはまらないものが 14 世紀から観察されることが分かった。14 世紀は *orphan verb* と *captain verb* の双方で使える *oc verbs* が初出する時期で、その後 20 世紀まで継続して新たな例が観察される。

14 世紀唯一の *oc verb* は、元々 *captain verb* だったものの 14 世紀に *orphan verb* の用法を得た *cripple* で、同動詞は Levin (1993) では *orphan verb* の例に挙げられている。

15 世紀には元々 *orphan verb* だった 2 つの動詞 (*fellow*, *saint*) が *captain verb* 化する。「誰かに仲間として振る舞う」ことと「誰かを仲間にする」ことは実質同じ行為であり、*fellow* が *oc verb* となるのは理にかなっている。*saint* は称号であるとともに一種の職業でもあるため、*orphan verb* と *captain verb* 双方の意味的特徴を持っていることになる。元々 *captain verb* だったのが 15 世紀に *orphan verb* の用法を得た例に *ferre* と *lord* があるが、*ferre* は *fellow* の類義語、*lord* は *saint* 同様に称号兼職業の一種である。

16 世紀の新たな *oc verbs* の約半数は *orphan verb* と *captain verb* の双方の用法を同世紀中に発達させており、当時の両動詞群の生産性を反映している。15 世紀の *fellow* や *lord* の延長で *oc verbs* になったと思われるもの（例：*friar*, *king*, *neighbour*）が複数ある一方で、*orphan verb* と *captain verb* いずれかだけの用法を持つ動詞と類義的あるいは関連性の強いもの（例：*boy*, *brother*, *slave*）もあり、元の名詞の意味のみで品詞転換後の動詞の用法を予測するのが困難であったことを示している。

17 世紀の *oc verb* は意味的に多様化する。既存の *oc verbs* と類義的（例：*buffoon*, *companion*, *servant*）または関連性の強いもの（例：*duke*, *prince*, *sister*）が見られる一方で、前世紀同様、*orphan verb* と *captain verb* いずれかのみでの用法を持つ動詞と類義的なものも多くある（例：*apostate*, *bankrupt*, *rogue*）。他に、名詞の意味からすると、Clark & Clark の *orphan verb* または *captain verb* どちらか一方のみの定義に合致するが、実際は *oc verb* であるものがあり（例：*traitor*, *widow*）、このように予想に反する意味は、使

用される構文から判別できる。

18 世紀中の新たな *oc verbs* の数は少なく、これまで同様関連する既存の *oc verb* になったもの（例：*esquire*, *queen*）もあれば、ある特徴を持つ人物を指す名詞が元となっているという、*captain verb* になることが多いパターンだが、「～のように扱う」の意味で *orphan verb* としても使われたものもある（例：*blackguard*, *sloven*）。

19 世紀に入って *oc verbs* の生産性は盛り返すが、既存の *oc verbs* と類義的または関連するものは限られており、様々な性格・社会的地位・特殊な人物・職業を表す名詞が *oc verb* 化する。また、Levin (1993) で *orphan verbs* の例に挙げられている *outlaw* は、古期英語期以来 *orphan verb* だったが、19 世紀に *captain verb* の用法が生まれ、*oc verb* の一員となった。

20 世紀の新しい *oc verbs* は数が少なく、その大半は *orphan verb* と *captain verb* 両方の用法を 20 世紀中に発達させているが、Clark & Clark の定義と照らし合わせると、*orphan verb* と *captain verb* のどちらにも明らかに当てはまらない。

以上、(1)から(3)で述べた内容を総括すると、16 世紀が複数の点において最も重要な転換期であると言える。*orphan verbs*、*captain verbs*、*oc verbs* の数がそれぞれ増え始め、*captain verbs* が形式目的語 *it* や不変化詞と共起し始め、*orphan verbs* と受動態との結びつきがより強固となり、固有名詞が *orphan verb* や *captain verb* 化し、呼びかけを表す名詞が *orphan verb* 化し始めるのは、いずれも 16 世紀である。現代英語に関する Clark & Clark の定義は、英語史を通して多くの *orphan verbs* と *captain verbs* に当てはまるが、この定義に該当しない動詞が既に中英語期に見られ、その数は 16 世紀以降より顕著となる。類義的でありながら *orphan verb*、*captain verb*、*oc verb* と分かれるケースも少なからず見られ、元の名詞の意味だけではどの動詞になるかは必ずしも予測できない。但し、動詞が使われている構文を元にその意味を判別できる。時代を経て動詞の数が増えるにつれて、意味決定において構文が担う役割が増したと言えるだろう。

本項目「研究成果」にまとめた内容は下記「主な発表論文等」の雑誌論文に基づくが、同論文で取り上げた現象の 1 つである、形式目的語 *it* との共起の史的発達と他動詞性 (*transitivity*) に特化した論文を書き上げ、海外の別の国際的学術誌に投稿し、本報告書執筆現在査読中となっている。

<引用文献>

Bladin, Vilhelm. 1911. *Studies on denominative verbs in English*. Uppsala: Boktrvckeri.

Clark, Eve V. & Herbert H. Clark. 1979. When nouns surface as verbs. *Language* 55.4, 767-811.
Levin, Beth. 1993. *English verb classes and alternations: A preliminary investigation*. Chicago: University of Chicago Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Ayumi Miura, 'One hour hath orphan 'd me, and widow 'd me: A syntactic and semantic history of English verbs converted from human nouns', *English Studies*, 査読有, Volume 99, Issue 1, 2018【印刷中】

〔学会発表〕(計 5 件)

Ayumi Miura, 'One hour hath orphan 'd me, and widow 'd me: A syntactic and semantic history of English verbs converted from human nouns', The 19th International Conference on English Historical Linguistics (ICEHL 19), 2016年8月22日~26日, エッセン(ドイツ)

三浦あゆみ, 「身分・役割を表す名詞派生動詞の統語・意味の変遷」, 英語史研究会第25回大会, 2015年4月11日, 倉敷市芸文館(岡山県・倉敷市)

Ayumi Miura, 'Denominal conversion verbs in the history of English: A picture emerging from the OED Online', The Fourth International Symposium on Approaches to English Historical Lexicography and Lexicology (OX-LEX4), 2015年3月25日~27日, オックスフォード(英国)

Ayumi Miura, 'English verbs converted from human nouns: Syntactic and semantic development', Langwidge Sandwidge seminar (Department of Linguistics and English Language, The University of Manchester), 2015年3月3日, マンチェスター(英国)

Ayumi Miura, 'Revisiting Levin's (1993) orphan verbs and captain verbs from a diachronic perspective', The 3rd International Conference of the International Society for the Linguistics of English (ISLE 3), 2014年8月24日~27日, チューリッヒ(スイス)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等 該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三浦 あゆみ (MIURA, Ayumi)
関西外国語大学・英語キャリア学部・准教授
研究者番号: 00706830

(2) 研究分担者 なし
()

研究者番号:

(3) 連携研究者 なし
()

研究者番号: